女子バレー部　春高バレー県大会６年ぶり優勝!!

１０月２９日～１１月３日（木・祝）にかけて宮崎市で行われたバレーボールの全日本高校選手権（春高バレー）宮崎県大会において、本校の女子バレーボール部が６年ぶりに優勝し、全国大会への切符を手にしました！準決勝でフルセットの接戦を制して臨んだ都城商業高校との決勝戦では、第１セットから持ち味の多彩な攻撃で攻め続けました。結果、3-0 のストレート勝ちで優勝を決めました。

全国大会は、来年１月、東京都で開かれます。引き続き、応援よろしくお願い致します！

2016 年 11 月 4 日（金）
宮崎日日新聞掲載記事

春高バレー県大会
最終日

バレーボールの第69回全日本高校選手権（春高バレー）県大会最終日は3日、宮崎市のKIRISHIMAツワブキ武道館で男女の決勝を行った。男子は都城工が日向学院をフルセットの末に破り、3年ぶりの優勝。女子は宮崎日大が都城商をストレートで下し、6年ぶりの頂点に立った。

都城工は0－2からの逆転勝ち。第3セットはブロックが効果的に決まり25－19で奪うと、徐々に攻撃にも勢いがつき続く2セットを連取した。日向学院はエース林泰佑を中心としたスピードある攻めでリードしたが、後半はサーブカットが乱れるなどし、競り負けた。

宮崎日大は第1セット、23－22から川添美咲のスパイクとブロックが連続で決まり奪取。その後も原田栞里らが力強いスパイクを決め続け、ストレート勝ちした。都城商は栗下詩子の強打などで対抗したものの、相手の多彩な攻撃の前に屈した。

都城工と宮崎日大は、来年1月に東京都で開かれる本大会に出場する。

▽男子決勝
都城工　3　21－25　16－25　25－19　25－13　15－11　2　日向学院

▽女子決勝
宮崎日大　3　25－22　25－21　25－17　0　都城商

【女子決勝・宮崎日大－都城商】６年ぶりの優勝を決め喜ぶ宮崎日大の選手（那良卓郎撮影）

V 日大 女子

自在な攻撃で圧倒

ようやく歓喜の瞬間が訪れた。過去3年連続準優勝と涙をのんだ宮崎日大が6年ぶりの春高進出。川添美咲主将は「1年の時から先輩たちの悔しがる姿を見てきた。応援に来てくれた先輩たちのためにも、絶対に優勝したかった」と笑顔をはじけさせた。

辛勝だった準決勝から一転、決勝は圧倒的な力を見せつけた。第1セットは12－16から、相手の攻撃パターンに対応して逆転。第2、第3セットは「誰がどこからでも得点できる」（上野敦史監督）という持ち味を発揮し、エース原田栞里や池田ひかる、中島咲愛らがミドル、両サイドからアタックを仕掛け、点差を広げた。

さらに、1年の横山真奈は強力なサーブ、準決勝で右肩を負傷した正セッター増田安美に代わって出場した2年の東美奈も的を絞らせないトス回しで貢献。総合力の高さも際立った。

今季はこれで県内5大会をすべて制覇。スピードを生かした攻守に磨きがかかり、「苦しい場面でも自分たちで話し合って立て直せるようになった」（原田）と精神的にも成長を遂げた。夏の全国総体は16強。原田は「次は8強以上が目標」と笑顔で誓った。（甲斐延明）

ロッカールーム

速攻に逆転許す

○…県総体王者の日向学院は、第1、第2セットを連取しながら逆転負け。試合後、選手たちはロッカールームでうずくまり、しばらく顔を上げることができなかった。

8月に絶対的エースの林泰佑が腰を痛め、約2カ月戦列を離れた。その間、金丸覇斗や田中厚気らによる攻撃の精度が格段に向上。全国総体で満足にプレーできなかった林も復活を遂げ、チームの士気は高まっていた。

序盤は相手エース対策として磨いたブロックとレシーブが機能し、試合を優位に進めた。しかし「相手の速攻とサーブに崩され、流れが変わった」と池田祐介主将。

最終セット。林は「自分がチームを全国に導く」と、仲間が上げたレシーブを次々と得点につなげたが、最後は11－14からスパイクがラインオーバー。池田主将は「本当にいいチームだった。あと3カ月、一緒にバレーがしたかった」と声を振り絞った。（甲斐延明）

壁をはね返せず

○…都城商は粘り及ばず、またしても宮崎日大の大きな壁にはね返された。第1セット、エース栗下詩子のクイックや奥野未優のスパイクなどで13－9と最大4点リードだが徐々に相手の高いブロックにつかまり始め、点差を詰められた。逆転でこのセットを落とすと、続く2セットは序盤の連続失点が響き、押し切られた。

今季3度、公式戦の決勝で宮崎日大に敗戦。日大に勝つためチームは試行錯誤を続けた。夏までウイングだった山元春奈は、今大会ミドルブロッカーに転向。ウイングのためのおとりとなりつつ、要所でクイックを決め「最初は不安だったが精いっぱいやれた」。ブロックに速攻にと、攻守にチームを引っ張った栗下も「負けたのは悔しいけれど、全部出し切った」と最後は笑顔を見せ「次の代は頑張って全国に行ってほしい」と後輩に思いを託した。（高橋正一郎）

選手ひとこと

日向学院・宮脇好生（3年生セッター）「中盤まではエースの林に負担をかけないトス上げを心掛けた。最後まで、一つのボールを大事にするチーム力は出せた」

都城工・豊丸倖誓（2年生。要所でスパイクを決め勝利に貢献）「3セット前に『もっと自分を使ってください』と訴えた。全国ではベスト8以上を狙う」

都城工・山下巧翔（1年生。優勝に）「自分の役割でもあるサーブキャッチをしっかり返せた。一本一本に魂を込めて戦いたい」

都城工・尾曲海信（1年生。優勝に）「監督の指示でブロックのタイミングを速め、決まるようになった」

宮崎日大・中島咲愛（2年生。初の春高出場を決め）「ずっと目標にしていたのでうれしい。コートの空いているところを狙い、大事な場面で得点を決められた」

宮崎日大・横山真奈（1年生。攻守に活躍）「少しでもチームに貢献したかった。もっとトスを上げてもらえるよう決定力を上げる」

宮崎日大・東美奈（先発した2年生セッター）「エースがリズムに乗れるようなトスを意識した。厳しい練習をしてきた分、自信を持って臨めた」

宮崎日大・増田安美（3年生セッター。右肩の負傷で第3セット終盤のみ出場）「最後に後輩に頼ることになったが、よくやってくれた。全国では自分が攻撃を組み立てられるようにしたい」

都城商・[illegible]主将（3年間を振り返って）「選手同士で意見を言い合い、苦しい時もあったが一つになれた。最後まで自分たちのモットーの、笑顔でバレーを楽しむ事はできた」

都城商・奥野未優（準優勝に）「日大に絶対に勝つという気持ちでやってきたのですごく悔しい。この3年で仲間を大切にする事を学んだ」

都城商・松元一太監督（ストレートで敗れ）「第1セットを取れなかったのが痛かった。最後まで走り回って戦えた」